日本学術会議公開シンポジウム

第3回　With/After コロナ時代における ケアの課題と新たな取り組み

～医療・ケア、倫理、政策の捉え直しと提案～

日　時：令和５年３月１８日（土）１３：００～１６：００

場　所：オンライン、及びYou Tube　　◎一般参加可、参加費無料

13：00　開会

司会　森山　美知子（日本学術会議連携会員、広島大学 教授）
山田　あすか（日本学術会議連携会員、東京電機大学 教授）

13：05　挨拶　武田　洋幸（日本学術会議第二部部長、東京大学 教授）

13：10　第２回公開シンポジウム「With/After コロナ時代におけるケアの課題と新たな取り組み」の概要
西村　ユミ（日本学術会議第二部会員、東京都立大学 教授）

13：20　我が国における高齢者終末期医療の課題～コロナパンデミックが浮き彫りにした諸問題
西村　正治（日本学術会議連携会員、豊水総合メディカルクリニック医師、
北海道呼吸器疾患研究所代表理事、北海道大学 名誉教授）

13：40　コロナ対応の倫理的問題：功利主義と自由
河野　哲也（日本学術会議連携会員、立教大学 教授）

14：00　感染予防策と適切な医療の確保の双方に関わる政策課題
武藤　香織（日本学術会議連携会員、東京大学 教授）

14：20　ウィズコロナ時代の地域社会とケア～すべての人にケアリテラシーを
山本　則子（東京大学 教授）

（休憩）

15：00　指定発言
飯島　勝矢（日本学術会議連携会員、東京大学高齢社会総合研究機構 機構長・
未来ビジョン研究センター 教授）

質疑応答

16：00　閉会

**主　催：日本学術会議　健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同少子高齢社会における
ケアサイエンス分科会
臨床医学委員会老化分科会、健康・生活科学委員会看護学分科会**
共　催：日本看護系学会協議会
後　援：日本看護科学学会

申し込み ☛

発表概要

「我が国における高齢者終末期医療の課題～コロナパンデミックが浮き彫りにした諸問題」

西村正治（日本学術会議連携会員、豊水総合メディカルクリニック医師、
北海道呼吸器疾患研究所代表理事、北海道大学名誉教授）

この度のコロナパンデミックで不幸な転機をとった患者は大半が後期高齢者であり、重症化したケースも圧倒的に高齢者が多かった。そのような患者が、自宅・介護施設・療養型病院等々から先端医療や救急患者を担うべき第一線の大学病院や地域の公的機関病院のコロナ病棟に次々と運ばれたのである。いったい、そこではどのようなことが行われ、どのような問題を引き起こしたであろうか。本講演ではコロナパンデミック下の高齢者医療とくに終末期医療の問題点を洗い出し、その背景にあるポストコロナにも繋がる高齢者終末期医療の課題について医師の立場からお話ししたい。

「コロナ対応の倫理的問題：功利主義と自由」

河野哲也（日本学術会議連携会員、立教大学教授）

今回のパンデミックでは、どのような倫理的な基準で政策判断をするかがきわめて困難であったと思われる。ここで拙いながらも哲学的な倫理学の立場から考察したいのは、日本人が倫理的判断をするための価値と選択の方法を普段からどのように学ぶべきかと、日本で無視されがちな幾つかの基本価値について、それをどのように判断の中に導入するかにある。それは同時に、マスコミでの議論の仕方でもあると思われる。

「感染予防策と適切な医療の確保の双方に関わる政策課題」

武藤香織（日本学術会議連携会員、東京大学教授）

COVID-19のパンデミックでは、流行のたびに異なる事態が発生し、感染予防策と適切な医療の確保の双方に課題を残し続けている。パンデミックである以上、医療やケアの提供について一定の優先順位に基づく施策決定を迫られる。しかし、ケアを必要とする人の人権擁護や倫理的な価値判断について、政府が基本的な考え方を明確にしない事態が長期化し、救急搬送や病床確保、ワクチン接種における優先順位、面会や付き添いの方針等は、地域や現場の判断に一任されてきた。政府のコロナ対策に携わった立場から、これらの課題を振り返る。

「ウィズコロナ時代の地域社会とケア：すべての人にケアリテラシーを」

山本則子（東京大学教授）

今までの地域社会はケアを必要とする人々を分離し別枠として対応してきたが、コロナ禍を契機としてこのような対応は破綻した。また、新興感染症、多発する災害など、誰もが突然ケアを必要とする人になりうる時代である。このような時代に、全国民が皆ケアラーになることを提唱したい。専門職に頼らず自分自身のケアラーになること、その力を応用し他者のケアラーになることが含まれる。ケアは、ケアラー側にも深い意味を持つ重要な人間活動である。老いも若きもあらゆる場面でケアリタラシーを高める仕組みを作りたい。

開催趣旨：

少子高齢人口減少社会が急速に進む日本では、これまでの制度や単一の学問の力では解決困難な複雑な問題が急増している。また地域においては、相互に支え合う機能が脆弱化し、新たな問題に対して地域の力を発揮することにも限界が見られている。さらに、新型コロナウイルス感染症のパンデミックが追い打ちをかけ、医療崩壊や介護崩壊など、様々な社会機能の崩壊が現実の課題として突き付けられた。こうした状況においては、互いに支え合う〈ケア〉が重要な意味をもつであろう。

我々が提案する「**ケアサイエンス**」**とは、ケアに関わる複雑な問題の根拠を解明するだけでなく、多学問分野および問題に関係する市民、行政、企業等と連携・協働して、〈新しいケア〉のあり方を模索し、共に作り上げていくことを意味する。**その中で科学者の地域貢献に関する役割を可視化する。この取り組みによって、「相互支援＝ケア」を基盤にもつ「地域共生社会」を構築し、持続可能な地域社会と健康で豊かな生活の実現をめざす。

本シンポジウムは、with/afterコロナ時代において、脆弱で喫緊の対策が必要な領域の、ケアに関わる先駆的な多分野共同研究および課題への具体的な取り組みをシリーズで紹介し、ケアサイエンスという新しい学問的見地から、直面している問題の核心を探り、関連する学問分野がより効果的に連携・協働できる提案や見解を見出すことを目的とする。

シリーズ企画の第３弾では、新型コロナウイルス感染症のパンデミックによって浮かび上がってきた、**高齢者終末期医療として行われたことと課題、日本人が倫理的判断をするための基本価値と選択の方法、政府の感染予防策と適切な医療の確保に関する課題、そして誰もが突然ケアを必要とする人になりうる時代の課題と全国民が皆ケアラーになることの提案**をもとに、多分野の登壇者および参加者の皆様との議論を通して、地域社会において共に生きることが成り立つために講じるべく策について検討する。